

# プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

バングラデシュ人民共和国 ビロル地域開発プログラム(BGD-186137)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 子どもフォーラムの活動に 子どもたちも積極的に参加しています

今年度、ビロル地域開発プログラム(以下、ADP)では、地域の教育状況の改善と最貧困家庭の生活の安定化のために活動を行いました。活動の結果、子どもたちが健康的な生活を送り、将来の可能性を広げるための教育を受け、家庭や地域で守られ、将来地域を担うリーダーとなることを目指しています。

今年度、子どもの権利や、子どもたちが生きていくために必要な力や知識、リーダーシップや友だちとの関係づくりなどを成長させていく場として、子どもたちのグループ(チャイルド・フォーラム)を作り、活動しました。子どもの権利週間に子どもたちの権利を守るよう地域の大人へ訴える行進を行い、早婚により勉強を続けられない子どもたちが出ないように求めました。こういったイベントの企画なども子どもたちが中心になって行い、より子どもたちが安心して成長できる地域づくりに、子どもたち自らが積極的に関わっています。



チャイルド・フォーラムの活動に参加する子どもたち

### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

ビロル地域より、ごあいさつ申し上げます。ご支援いただいているチャイルドと地域の人々への温かいお気持ちと愛に、心よりの感謝を込めて、活動の成果をご報告します。ご支援により、地域の子どもたちや住民の暮らしが大きく改善されていることをご報告でき、大変嬉しく思います。心からの感謝とともに、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

スジット コスタ  
(ビロルADPマネージャー)



## 教育プロジェクト

最貧困層の家庭の子どもたちが継続して教育を受けられるよう、教育支援を行いました。就学前教育(ECD)では、子どもたちが小学校での教育を受けるための準備を行い、2014年度には437人の子どもたちがECDセンターに通いました。また、学校の建物や塀の改修、グラウンドの整備、机やイスの支援を行い、学習環境が改善されました。



伝統の文化を守り伝えるための授業の様子。太鼓やダンス、オルガン、などを学んでいます



保護者への啓発活動の様子。保護者も学校運営に参加する話し合いが持たれました

そのほか、保護者が教育の重要性を認識するため、啓発活動を行いました。より多くの子どもたちに入学者の機会を与え、安全な環境で楽しんで勉強に取り組めるよう引き続き活動を行っていきます。

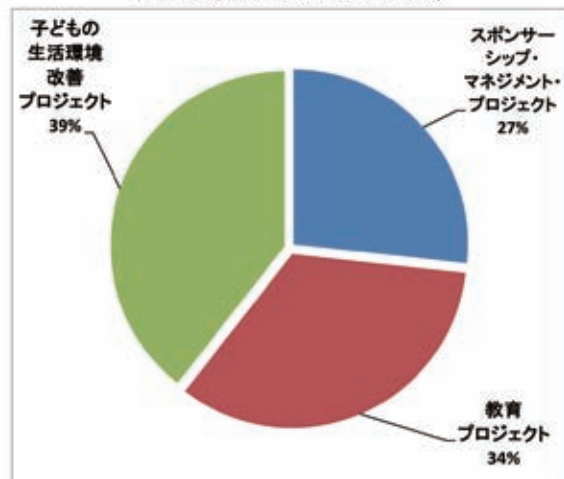
## 会計報告

### 収支計算書

自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

BGD-186137 (単位:円)	
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	63,942,954
当期支援額	63,942,954
前期繰越金	1,948,727
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>65,891,681</b>
<b>プログラム支出額</b>	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	16,757,135
教育プロジェクト	21,204,461
子どもの生活環境改善プロジェクト (栄養改善、収入向上・経済開発)	24,730,815
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>62,692,411</b>
次期繰越額	3,199,270

### 支援分野別内訳( BGD-186137 )





## 子どもの生活環境改善プロジェクト

### 1) 健康・保健・衛生分野

地域の母親たちに対し、栄養不良の子どもたちの健康状態の改善や病気の予防に関する知識について、また、妊産婦の健康管理について、研修などを通じた啓発活動を行いました。その結果、地域の中でも特に脆弱な家庭環境にある3歳以下の子どもたちの栄養不良が改善されています。母親たちが子どもの病気や栄養不良についてより注意を払うようになり、栄養不良と診断されていた子どもたち480人の内、477人(99%)の栄養状態が改善されました。また、発病時に診療所を利用する子どもたちが増加しているほか、妊娠中の母親が出産前検診を受診する割合も、2011年の58%から2013年には76.68%に増加しました。

そのほか、水・衛生環境改善のため、各家庭に手押し式井戸やトイレの設置を行い、2年前に比べ衛生的なトイレを使う家庭の割合が53%から58%に向上しました。さらに全体で43ある村の内、12の村ではその割合が100%となり、子どもの健康状態改善に大きな効果がありました。



特に深刻な栄養不良と診断された子どもたちに栄養価の高い食事を支援しました



子どもたちの栄養不良を改善するため、栄養バランスのとれた食事の調理法を学ぶ研修を行いました



手押し式井戸が設置され、安全な飲み水を身近に得られるようになりました

### 2) 農業・経済開発分野

農家の人々を対象に研修を行い、より生産性の高い農業技術と栽培方法や家畜の飼育に関する訓練を行いました。その結果、より多くの農家が新しい技術を使った農業を行うようになり、生産高が向上しています。女性や若者も縫製などの技能を学び、資機材の提供を受けて、安定した収入を得ることができるようになりました。これにより、生活水準が向上し、自分たちの力で子どもたちを守り育てていけるようになっていきます。



縫製の技術とミシンの技術を受けました。女性が現金収入を得ることは難しかったのですが、縫製により収入向上も目指せるようになりました



より生産性の高い農業技術を学び、実験しています



## スポンサーシップ・マネジмент・プログラム

「スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。また、チャイルドや両親、地域リーダーに対し、子どもの権利を守ること、両親の役割、命の尊さなどについての啓発活動を行いました。地域の人々とより良い関係を築き、効果的な活動が行えるよう活動を行っています。



通学かばんを支援され喜ぶ子どもたち

## 希望をなくしていた家族が新たな希望を見つけ、 今では積極的に活動に参加しています



ヌルノビさんとその家族

ヌルノビさんは、2人の子どもの持つお父さんです。彼自身がとても貧しい家庭に育ち、家庭を持ってからも経済的に貧しく、家族を養うのに十分な収入がありませんでした。ヌルノビさんは、地域でワールド・ビジョンが活動を開始した際、命の尊さや子どもの権利、子どもを持つ親に向けた研修に参加しました。その後、収入向上のための学びや支援を受け、今ではレストランを運営しているほか、農業も行い、安定した収入を得られるようになりました。また、地域の活動を推進する住民組織である開発グループの委員として、チャイルド・スポンサーシップの運営に協力し、子どもたちの権利を守るための活動を率先して行っています。実際、ある女の子を早婚から守ったほか、親が教育の重要性を認識できず学校に通わなくなってしまった子どもたち2人が勉強を続けられるよう働きかけ、毎日学校に通えるよう尽力しています。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。



# プログラム近況報告

PROGRAM PROGRESS REPORT

World Vision

この子を救う。未来を救う。



ECD センターでは、子どもたちの成長のため、遊びを取り入れています

## ビルゴンジ地域開発プログラム

Birganji ADP (BGD-192234)

2013 年度（2012 年 10 月 1 日～2013 年 9 月 30 日）

### 613 人の子どもたちが EDC センターで楽しみながら学んでいます

ビルゴンジ地域開発プログラム（以下、ADP）では、貧しい家庭の子どもたちが小学校に入学後、勉強について行けず落第や中退してしまうことを防ぐため、就学前の子どもたちを対象とした、地域内 25 カ所の就学前教育（以下、ECD）センターを運営しています。今年度は、3～5 歳の幼児 613 人が参加したほか、2012 年 12 月には約 300 人の子どもたちが ECD センターを卒業し、10 校の小学校に進学しました。ECD センターではゲームや詩、歌を使って、楽しみながら学習を行っています。

将来子どもたちの親や地域の住民自身でこのセンターを運営できることを目指し、学習センターの整備や学習素材の準備に取り組んでいます。また、住民組織のメンバーが中心となり保護者同士の集まりを企画し、地域の活動を住民たち自身が積極的に進めることで、協力関係が深められています。地域の人々が子どもの存在を大切にし、子どもたちが健やかに育ち、生き生きとした人生を送れるよう地域として、また、親として何ができるかを話し合う取り組みが進められています。

## 子どもフォーラムの子どもたちが地域の様々な課題に取り組んでいます



地方自治体の担当者に早婚の停止を求める手紙を渡す子どもフォーラムのメンバー

子どもたちが自分で物事を考えて決断し、将来、地域のリーダーとなることを目指し、地域では20の子どもフォーラムのグループが活動しています。各グループに約30人のメンバーがおり、地域の様々な問題を取り上げ、改善に向けての活動を行っています。例えば、早婚、児童労働などから地域の子どもたちを守るため、親への啓発活動を行ったり、女性への暴行をやめさせるよう政府に働きかけを行い

ました。また、特に貧しい家庭の子どもたちが学校の勉強についていけず、途中で退学してしまう状況を改善するための活動を行いました。子どもたちの提案で基金を作り、学校に入学できるようにし、基金により教科書や文具などを支給したほか、定期的に家を訪問し、学校に通えているかを継続してサポートしています。学校に通えるようになった子どもたちとその両親はとても喜んでいました。

## 農業指導と資材の提供を行いました

地域で最も貧しく、社会的に脆弱な家庭の生計手段（収入）をより確実なものにすることを旨し、234世帯の農家に対し、新しい農業技術の指導や必要な農業用資材と機具を支給しました。その結果これらの世帯で平均16%収穫が向上しました。また、家庭でこれまで収入源のなかった女性が小規模ビジネスの方法を学ぶことで、各世帯で2つ以上の収入源を得て、家庭の収入が向上しています。



農作物の収穫量が  
**16% UP**



ワールド・ビジョン主催の栄養フェア2013を視察する政府職員



## 子どもたちの環境が改善されています

### — 栄養改善・保健衛生 —

子どもたちの栄養状態改善のため、母親を中心に、栄養バランスのとれた食事とその調理方法について研修を行いました。子どもたちやその親など13,596人が参加し、5歳以下でこの研修に参加した栄養不良の子ども667人の内、484人（72%）に改善がみられました。

また、予防可能な病気から身を守るための研修に、4,140人の住民が参加し、親が子どもの病気により注意を払うようになりました。



**72%**の  
子どもの栄養状態が改善



栄養改善の活動に参加し、子どもたちの成長を確認するため体重を測る母親たち

### — 教育 —

教育省や学校運営委員会と連携し、小学校7校、高等学校3校の計10校で、子どもたちの学習環境改善を目指した活動を行いました。

老朽化の激しい校舎の改修や建設を行ったほか、3,068人の生徒に文房具などの学用品を支給し、144人が奨学金を受け、480人の生徒に補習授業を行いました。教師が以前より積極的に授業に取り組むようになった結果、生徒の出席率が向上しています。



**3,068**人の  
子どもたちに学用品を支給



学習環境が改善されています

## 子どもたちの成長を見守っています

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



スポンサーに向けて成長報告に絵を描くチャイルド

## チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いに存じます。皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦

## ADP マネージャーからのごあいさつ

美しい自然のバングラデシュから、心を込めてごあいさついたします。皆さまの継続的なご支援にお礼を申し上げます。ここに、地域での活動の成果をご報告でき、大変嬉しく思います。地域の人々は自分たちの生活が必ずや良いものになると信じ、熱心に活動に参加しています。

皆さまのご支援に感謝しつつ、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



アドヴェント トリブランド (ビルゴンジ ADP マネージャー)

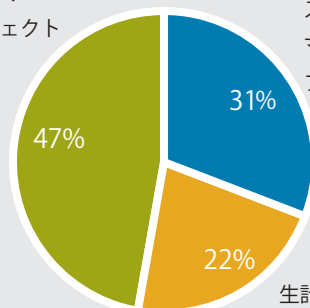
収支計算書 自 2012 年 10 月 1 日 至 2013 年 9 月 30 日

### 会計報告

支援分野別内訳 (BGD-192234)

プログラム支援額	(単位：円)
チャイルド・スポンサーシップ	57,295,532
当期支援額	57,295,532
前期繰越金	2,051,220
プログラム支援額合計	59,346,752
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	17,721,190
生計向上プロジェクト	12,361,103
子どもを取り巻く環境改善プロジェクト	26,626,387
プログラム支出額合計	56,708,680
次期繰越額	2,638,072

子どもを取り巻く  
環境改善プロジェクト



生計向上プロジェクト

### お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

TEL : 03-5334-5351 / FAX : 03-5334-5359

(平日 9:30 ~ 19:00)

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ : [www.worldvision.jp/](http://www.worldvision.jp/)

e-mail : [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください



# プログラム近況報告

Bangladesh People's Republic Full Baria Area Development Program (BGD-185387)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 子どもたちが地域で守られて健やかに成長できるように

2013年度も、フルバリア地域開発プログラム(以下、ADP)では、特に厳しい環境に置かれている子どもたちが教育を受けられるよう、また、地域で守られて健やかに成長できることを目指し活動を行いました。さらに、母親と子どもたちの栄養状態の改善、小学校教育の質の向上のための支援を行いました。各家庭の収入向上のため、農家へ種子の選定や肥料の使用方法など、新しい農業技術や知識を学ぶ機会を設け実践されているほか、灌がいや家畜生産、養殖などにおいても学んだことを生かして適切に管理していきます。

そのほか、住民が中心となって活動を行えるよう、住民組織を設立しました。住民組織は複数の小グループで構成され、地域に根ざした活動を行っていく予定です。今後も、子どもたちが健やかな成長ができる地域となるよう活動を続けていきます。

読み書きを習う大切さについて地域の人々へ啓発するため、国際識字の日を記念したイベントを行いました



### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

親愛なるスポンサーさま

フルバリア地域より、チャイルドと地域の人々への温かいご支援に、心よりお礼申し上げます。皆さまからの愛に満ちたご支援が、この地域にたくさんの変化をもたらしていることを、地域を代表して心よりの感謝を込めてお伝えします。皆さまの継続的なご支援をありがとうございます。神さまの豊かな祝福が皆さまにありますように。

ユヌス シヤングマ  
(フルバリアADPマネージャー)



## 栄養改善活動

地域の5歳以下の子どもたちの48.7%が栄養不良の状態です。この状況を改善するため、2013年度は、地域の親たちを対象とする様々な研修を行いました。例えば、5,400人の母親と10代の女性が基礎的な健康管理の方法について研修を受けたほか、4,323組の親たちが予防接種の重要性と死亡率の高い病気についての研修を受け、子どもたちの健康状態に必要な知識を得ました。

子どもたちの栄養状態改善には  
母親の知識の向上が不可欠です



2013年世界母乳週間に母乳の大切さについて地域の人々へ啓発活動を行いました

そのほか、3,421人の妊婦と授乳期の母親とその夫に対して、妊娠期や産前産後の母親に必要な栄養や健康管理についての研修を行いました。その内1,634人が出産前の健康状態を確認するための簡易的な検診などを受けました。また、13,015人が衛生的な生活を送れるよう、手洗いやうがい、爪を切り清潔に保つことや、トイレの利用などの大切さについて理解を深めました。

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



世界のワールド・ビジョンが連携し、各国政府に対して、子どもたちを救う取り組みの拡充を求めた「Child Health Now-アクション! 救えるはずの命のために」キャンペーンに参加し、5歳以下の子どもたちが5歳の誕生日を迎えられるようになるために、フルバリア地域でも住民たちが声を挙げるイベントが行われました



## 教育活動

教育の環境と質の向上を目指し、ADPは子どもの権利を保護し、能力を十分伸ばせるよう様々な活動を行いました。2,000人の教育プログラム参加者は、質の高い教育の必要性について認識を深めました。また、合計1,262人の貧しい家庭の生徒、学生は教育援助を受け、勉強を続けることが出来ました。



小学校での授業の様子。子どもたちにとって勉強できることは大きな喜びです



新たに建設された小学校を喜ぶ子どもたち

さらに、31の学校などの教育機関に支援を行いました。これまでの支援の成果として、合格レベルの45%以上の成績取得者の割合が44.89%から63%に増加しました。



子どもの権利について、子どもたち自身が考え意見を出し合う機会を設けています

## 会計報告

### 収支計算書

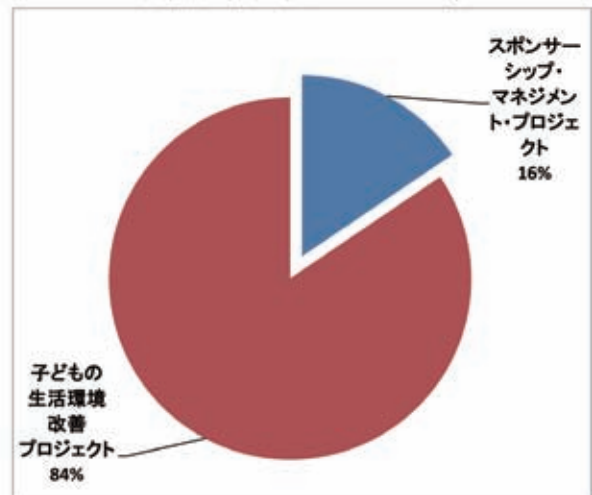
自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

プログラム支援額		BGD-185387 (単位:円)
チャイルド・スポンサーシップ		100,407,481
当期支援額		100,407,481
前期繰越金		5,652,454
プログラム支援額合計		106,059,935

プログラム支出額		
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト		16,014,261
子どもの生活環境改善プロジェクト (栄養改善、収入向上・経済開発、教育)		87,081,113

プログラム支出額合計	103,095,374
次期繰越額	2,964,561

### 支援分野別内訳( BGD-185387 )



## 収入向上・経済開発活動

農業分野の生産高や生産性を向上するため、237人の最貧困層の農家に対し研修を行いました。その結果、単位面積当たりの生産高が平均で19.52kgから24.07kgに向上しています。また、各家庭の収入向上のため、253人の住民組織のメンバー、寡婦、チャイルドの家族に、縫製、食品加工、竹工芸などのほか、ライトや配線などの簡単な電気機器を修理する技術、バイクや車のエンジン整備のための技術、パソコンの操作方法などの研修を行い、収入を得るための研修と実際に事業を行う上で必要なアドバイスなどを行いました。

これらの活動の結果、各家庭の収入が向上し、より多くの女性たちが現金収入を得られるようになりました。また、収入が向上したことで、地域の人々は一日に三回食事をとることができるようになり、さらに子どもたちのための教育費や医療費を支払うことができるようになっています。



農業支援を受け、白ヒョウタンの収穫を喜ぶ家族



収入向上のため、竹細工の製品を製作する女性



育てている牛と一緒に写るナジムル君とお母さん

できました。牛の支援を受けたことで育てた牛からとれる牛乳を家族で飲み、子どもたちの栄養状態が改善されたほか、牛乳を売って得た収入で子どもたちに必要な教育を受けさせたり、衣類を買うことができるようになりました。さらに、新たに生まれた牛を売り、貯蓄したお金で土地を借り、米の栽培も始めています。お母さんは、卒業するまでナジムル君を学校に通わせることを楽しみにしています。

### 家庭の収入が向上しています

ナジムル君（9歳）のお父さんは日雇いの仕事をしていたが、家族5人の生活はとても厳しく、栄養のある食料や衣類を買ったり、ましてや貯蓄をする余裕などはありませんでした。この村では女性が就ける仕事が多かったのですが、お母さん（50歳）は子どもたちの栄養不良を改善し、学校に行かせるため、なんとか仕事をしたいと願っていました。そのような時、ワールド・ビジョンの活動を知り、地域で開催された畜産技術の研修を受け、牛の育て方を学ぶことが



お米の栽培もできるようになりました

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) ホームページ: [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。



# プログラム近況報告

バングラデシュ人民共和国 カルマカンダ地域開発プログラム(BGD-169848)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 障がいのある子どももみんな仲間です!



障がいのある子どももそうでない子どもと一緒に通学しています

カルマカンダ地域開発プログラム(以下、ADP)では、これまで障がい者に対して偏見や差別があり、障がいのある子どもたちは地域の様々な活動にほとんど参加できませんでした。このような地域状況を改善するための啓発活動に、地域住民1,600人以上が参加したほか、障がいを持った子どもたちの保護者も一緒に啓発活動に参加しました。その結果、地域の人々の障がいを持った子どもたちへの見方に変化が見られるようになり、様々なイベントに参加できるようになったほか、学校にも行けるようになりました。障がいを持った子どもも、そうでない子どもも、一緒に遊んだり勉強したりするようになりました。

### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

カルマカンダADPを代表し、皆さまにごあいさつ申し上げます。  
バングラデシュ国内では、政治的に不安定な状況が続いていましたが、地域の子どもたちやその家族、住民、学校の教師など、支援地域のすべての関係者の協力のもと、今年度の活動を実施することができました。これもひとえにスポンサーの皆さまの継続的なご支援の賜物であり、この地域に変化をもたらしてくださっていることに本当に感謝いたします。今後も引き続きご支援をお願いするとともに、皆さまのご多幸をお祈りしています。

アンドリュー オルップダス (カルマカンダADPマネージャー)



## 経済開発プロジェクト

コミュニティの活動が継続するよう、地域に根ざした開発グループ(CBO)の育成を図っています。合計37のCBOが活発に活動しており、経済的・人的な能力が向上し、自ら地方行政の関係する部署と連絡を取り、地域の要望を伝えることができるようになってきました。



スイカ栽培の様子



羊の支援を受けるCBOのメンバー

また、収入向上のため縫製、刺繍、ブロック染色、竹工芸など様々な技能向上の研修の機会を提供し、400人が参加しました。農家に対しては、農業の研修を行い785人が参加したほか、25のCBOに対し、灌がい用ポンプなどの農業機械の支援を行いました。そのほか野菜や稲の種子や肥料、子豚、アヒル、牛や乳牛、養殖用飼料など、様々な農業関連の支援を合計1,003戸の農家に提供しました。

地域の特に貧しい300人以上の人々が、15のCBOの活動に参加し、小規模ビジネスや農業、畜産などの事業を行うことによって収入を得られるようになりました。

現金の提供と引き換えに労働機会を提供するプログラム(Cash for Work)により、約3キロの市場へ通じる道が整備・修復されました。



CBOから融資を受けるCBOのメンバー(左)。各メンバーは少額ずつ貯蓄を行い、必要な時にCBOからローンを借りて、小規模ビジネスなどの資金に充てています



## 教育プロジェクト

地域の貧しい家庭の子どもたちが勉強を続けられるよう授業料や、試験料、問題集を支援したほか、成績の振るわない子どもたちへの課外授業を行い、3,000人以上の子どもたちが支援を受けました。その結果、今年の小学校の修了率は72%（一年前は66%）、中学校の修了率は54%（同21%）に向上しました。また、146人の学校運営委員会（SMC）委員へ研修を行い活動が活発化しています。SMCでは教師とともに、生徒や保護者たちも参加した話し合いの場の設定を行い、学校での教育環境や教育の質の改善を促進しています。また、教育の質向上のため、教師への研修を行い、40人の教師が参加しました。そのほか、5つの学校に対し、グラウンド整備や校舎の修復、机やイスなどの備品の支援を行いました。

11-16歳の子どもたちを対象としたライフ・スキル・トレーニング<sup>※</sup>を行い、合計190人が参加しました。その結果、家族の中で物事を決める際に子どもたちも参加するようになり、親も子どもたちの意見に耳を傾けるようになっていきました。また、コミュニティの中で680人の人たちが子どもの権利や早婚、児童労働に関して知識を得るとともに、これらの弊害などについて研修を受け、その意識を高めました。

### ※ライフ・スキル・トレーニング

問題解決法、コミュニケーション・スキル、対人関係、チームワーク、決断の仕方、計画性など、生きていくうえで必要な知識・技術を学ぶ



ライフ・スキル・トレーニングの様子



教師への研修の様子

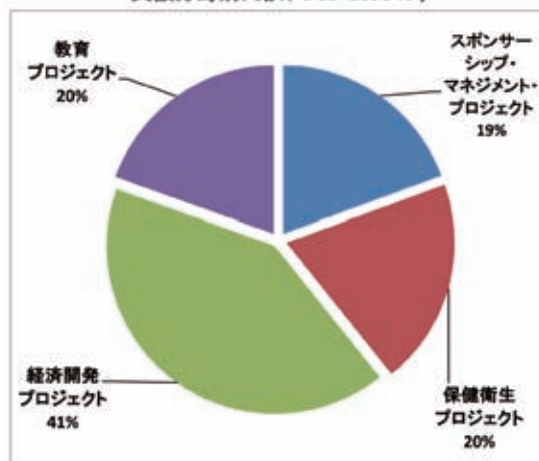
## 会計報告

### 収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

BGD-169848	
(単位: 円)	
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	72,732,877
当期支援額	72,732,877
前期繰越金	12,502,593
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>85,235,470</b>
<b>プログラム支出額</b>	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	16,160,486
保健衛生プロジェクト	16,488,793
経済開発プロジェクト	34,246,638
教育プロジェクト	16,258,488
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>83,154,405</b>
次期繰越額	2,081,065

### 支援分野別内訳( BGD-169848 )



## 保健衛生プロジェクト

昨年に引き続き、母子保健に重点を当てて活動を行いました。子どもたちの栄養状態を改善するため、25のコミュニティで、入手可能な食材を使った調理実習と栄養食を提供し、5歳未満の子どもたち1,565人が参加したほか、母親への栄養と健康に関する講習会を行いました。その結果、体重不足の5歳未満の子どもの割合が、前年の48.9%から36.7%に減少しました。

また、水と衛生や産前産後の子どものケア、障がいを持った子どもに対する支援にも取り組みました。地域の保健衛生委員会のメンバーとともに、地域住民に対する啓発や講習会などを開催し、保健衛



栄養価の高い食事を提供しています

生や母子の健康などについての知識や意識の向上を図り、今では92.63%の保護者が子どもの下痢の症状に対して、どのように対処すればよいのかを適切に答えることができるようになりました。そのほか、地域内に衛生的なトイレを合計275カ所、深井戸7カ所、浅井戸3カ所、さらに公衆トイレ1カ所、学校のトイレ1カ所を設置し、水を媒介とする疾病の減少を図りました。障がいを持った子どもの社会参加や障がいへの理解を促進するために、30の障がい福祉委員会が結成され、合計219人の障がい者が様々な保健に関する記念日のイベントに参加しました。



障がいを持った子どもが友だちと遊んでいます

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



通学カバンと練習帳を受け取り喜ぶチャイルドたち

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) ホームページ: [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。



# プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

Bangladesh 人民共和国 カハル地域開発プログラム (BGD-192233)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)



通学カバンを支援され喜ぶ子どもたち

## 地域住民との協力関係が深められています

カハル地域開発プログラム(以下、ADP)は、活動開始から2年目となる2013年度、地域内8つの村の社会的に脆弱な最も貧しい5,795世帯、23,053人の就学年齢児童、さらに7つの学校を対象に支援しました。

地域の人々が主体となり、継続的に地域のために貢献できるよう、4つの住民組織と8つの村落開発委員会とともに活動を行いました。住民以外にも、地域を管轄している郡教育局や畜産局、農業局、保健・家族計画局、公衆衛生局、地域住民組織、農村開発委員会、学校やジャーナリスト協議会などとの協力関係が深められています。今後も、地域の様々なパートナーと協力し、地域の子どもたちが健康に成長できる環境を整えるため、活動を行ってまいります。

## チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

カハロルADPを代表して、スポンサーの皆さまの温かいご支援に心より感謝申し上げます。カハロルADPでは、支援地域の最も貧しい家族の生活改善のため、住民組織や村落開発委員会と協力合って活動を進めています。地域の人々も、より積極的に活動に参加するようになり、このプログラムが終了し、ワールド・ビジョンが地域を去った後も、地域の人々が中心となって活動が継続されることを目指しています。

ロンジョン ジョン ポール ロザリオ  
(カハロルADPマネージャー)



## 保健衛生プロジェクト

地域の子どもたちにとって最も大きな課題となっている栄養不良を改善するため、研修や啓発活動を行いました。この栄養不良改善プログラムには、402人の親が参加し栄養不良の原因とその予防について知識を深め、母乳育児の大切さを理解しました。支援開始当時、約40%の母親が生後6カ月まで母乳育児をしていましたが、今年度は約80%の母親が生後6カ月まで母乳育児を継続するようになりました。また、栄養不良の子どもたち245人の内、221人に体重増加が見られました。

水・衛生に関する知識や衛生習慣についての啓発活動には、913人の地域住民が参加し、67%の人々が衛生的なトイレを利用できるようになりました。子どもの病気に適切に対応するための研修も行われ、514人の親たちが参加し、下痢の予防方法についての知識を深めました。地域で安全なお産に関する知識も普及しつつあり、より多くの妊婦が病院や診療所で出産することができました。そのほか、多くの子どもたちが予防接種を受け、下痢の発生率も減少しています。



3歳以下の子どもたちの栄養不良改善のため、栄養ある食事作りの研修を行いました



## 教育プロジェクト

地域の子どもたちが質の高い教育を受けられるよう、52人の教師とともに教育環境の改善に取り組み、8つの学校、10の就学前教育（以下、ECD）センターで活動を行いました。

6歳以下の233人の子どもたちがECDセンターに通い、卒業した73人の子どもたちが小学校へ進学しました。6～8歳の子どもたちが参加している子どもクラブでは、子どもたちが自分たちで考え意思決定していく技術、ライフ・スキルを学んでいます。これらの活動の結果、6～8歳の子どもたちの中途退学率に減少がみられています。



ECDセンターで学ぶ子どもたち

## 地域組織化プロジェクト

地域の子どもたちの健やかな成長を促すため、4つの住民組織と8つの村落開発委員会と協力し様々な活動を行い、地域の約半数の人々が活動に参加しています。住民組織や村落開発委員会のメンバーのリーダーシップやマネジメント能力がこのことにより向上しています。また、地域で最も貧しい家庭の99%が、収入向上に向けた小規模な起業活動に参加しました。村落開発委員会では、最も支援を必要としている家庭の選定や、チャイルドの定期的な訪問活動を行っています。



能力強化の講習に参加する地域住民

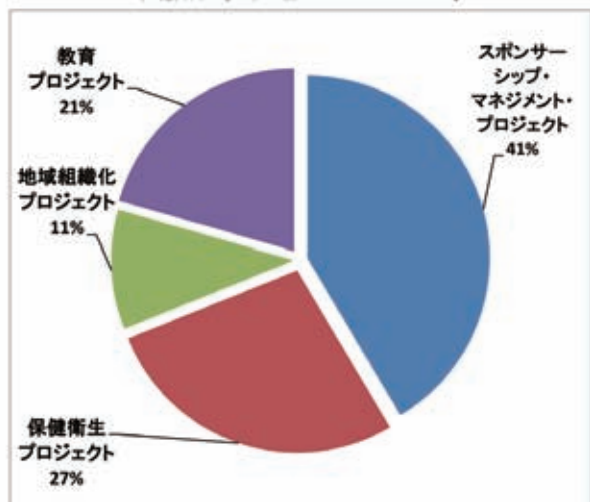
## 会計報告

### 収支計算書

自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

	BGD-192233 (単位:円)
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	23,218,219
当期支援額	23,218,219
前期繰越金	1,339,173
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>24,557,392</b>
<b>プログラム支出額</b>	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	10,065,522
保健衛生プロジェクト	6,653,849
地域組織化プロジェクト	2,550,676
教育プロジェクト	4,991,200
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>24,261,247</b>
次期繰越額	296,145

### 支援分野別内訳 (BGD-192233)



## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



誕生日会を行いました。子どもたち一人ひとりが自分の存在が地域で喜ばれていることを実感し、楽しい時を過ごしました

## チャイルド・ストーリー

### ご支援により一人の子ども健康が守られました

サキラちゃんは、地域の就学前教育センターに通う6歳の女の子です。お父さんは日雇いの仕事で家計を支えており、サキラちゃんは三人兄弟の末っ子です。2年前のある日、サキラちゃんは突然熱を出し、危険な状態になりました。医師のもとで診察を受けヒルスプレング病であることが分かりました。一刻も早く3回手術を受ける必要があること、費用は30万から40万タカ（約5,000米ドル）かかることが伝えられました。そのような費用を支払うことなど到底考えられず、気を失いそうになったと両親はその時のことをこう振り返ります。「もうサキラのために何もしてあげられないと思い、サキラを見るたびに涙が出ました。娘と一緒に死のうとすら思いました」

そのような時、ADPのスタッフは彼らを慰め励ますとともに、どうしたらサキラちゃんを助けられるかを一緒に考えました。両親は、親戚や考えられるすべてのところからお金を借り、またADPも治療のための支援を行い、サキラちゃんは治療を受けることができ



ました。最後の手術は、2012年11月に行われ、1カ月の絶対安静の後、サキラちゃんは通常の生活に戻れるようになりました。サキラちゃんはこう言います。「しばらく友だちと一緒に遊べなかったけど、今では木登りもできるようになったよ。それにECDセンターのキャプテンもしています。学校がとても楽しいです!」

お母さんは、この奇跡を起こしてくださった神さまと支援に感謝しています。「ワールド・ビジョンは支援だけでなく、いつも私たちと一緒にいて、手術の成功を祈ってくれました。このご支援を決して忘れません」サキラちゃんのお父さんは、ADPの活動に参加し、今では小規模ビジネスを始めました。また、荷台の

ある運搬用自転車を漕ぐ仕事をしています。お母さんは、村落開発委員会のメンバーの一人として積極的に活動に参加しています。

ECDセンターでサキラちゃんと一緒に学ぶ子どもたち

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。